

【小学生の部：厚生労働大臣賞】

「手」

鹿児島県・日置市立湯田小学校
2年 蒲牟田 一葉 さん

ぼくの右手は、五本のゆびがあります。でもぼくがよんだ『さっちゃんのまほうのて』の中に出てくるさっちゃんの右手には、ゆびがありません。とてもかわいそうです。ごはんは左手でたべるのかな。生かつしにくいだろうな。いのちのつぶが、おなかの中でけがをして、ゆびができなかったなんてかわいそうだなと思いました。そして、ほかにも色いろなけががありそうだなと思いました。

ぼくがかよっている「ふるさとの森の学どう」にも、足がわるくて車いすにのっている友だちがいます。名前はJくんです。とても明るくて、さいしょJくんから、

「何年生。」

と話しかけてきました。それですぐになかよしになりました。いっしょに学どうでゼリーをつくったり、ボールあそびをしたりします。ボールあそびのときは、Jくんがボールをおとしたら、ぼくがひろいに行きます。でもぼくよりずっと上手でありおとしません。車イスにのっていて、たいへんそうだけど、たいへんだと言うことは、聞いたことがありません。Jくんも、おなかの中でけがをしたのかな。でも、いつでもげん気で明るいJくんがぼくは大すきです。これからもなかよしの友だちでいたいなと思っています。

ままごとで、おかあさんのやくをしたいさっちゃん。

「右手がないのにおかあさんって、へんだもん。」

と言われておこったさっちゃん。ぼくは、いじわるなことを言う人はいやだなと思いました。右手がなくても、じぶんのことのできるさっちゃん。左手だけでがんばっているさっちゃん。さっちゃんは、きっといいおかあさんになれると思いました。

さっちゃんやJくんみたいにがんばっている人たちに、これからも会ってみたいなと思いました。そして、ぼくももっともってげん気に明るく生きていきたいと思いました。